

□令和2年度_地方創生交付金活用事業評価

no	事業名	R2事業費等	評価指標及び実績値					事業内容
		単位：円	指標	年度	指標値	単位	実績値	
1	<p>■ バイオガスプラント余剰熱を利用したハウス野菜栽培事業</p> <p>本町の畑作農業は、従業員等の雇用は増えたものの、冬から春にかけての農閑期の雇用機会は少なく、生計が安定せず、働く場を求め町外への人口流出が課題となっている。バイオガスプラント余剰熱を有効活用した農閑期のハウス野菜栽培プロジェクトを実施することで、新たな農産物の生産起点として、雇用機会の創出、労働人口の転出抑制につなげる。</p> <p>※地方創生交付金の利用状況</p> <p>【推進交付金】（H28～H30）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス野菜栽培作業員の雇用 ・試作・実証経費（種子・苗等の購入、その他必要経費） ・栽培品分析費（食品検査、野菜成分分析等） ・栽培管理指導費 <p>【拠点整備交付金】（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜ハウス施設の建設 ※資料1 	事業費 2,598,000	①新たな雇用の創出人数	H28	0	人	0	<p>令和2年度は、常勤の職員2名のほか、障害者雇用で1名、土日の栽培管理で1名の雇用となった。障害者雇用に関しては、対応可能な業務もかなり広がり、今後も重要な労働力として期待する。また、R3年度には障害者雇用の継続と併せて土日の栽培管理には畑作従業員の雇用をしている。事業費のうち、150万円ほどは人件費。</p> <p>販売に関しても、R2年度は帯広の卸売市場や洋菓子店にハーブやエディブルフラワーなどの販売を開始し、主力のトマトなどと合わせた販売収入は100万円を越えた。評判は非常に好評で、出荷した分がすぐ売れてしまうため出荷量を増やしてほしいなどの要望もあり、今後安定供給に努める。</p> <p>新たな作物として、ハーブ類やエディブルフラワー、葉物野菜など多数の品目に取り組んでおり、トマトに関してもこれまで20種類以上の品種を栽培し、より栽培に適しており食味も良いものを模索している。また、ハウスの一角でパッションフルーツやバナナ、パイナップル、バニラなど高収益作物の試験も開始し、幅広く試験を行っている。</p> <p>令和3年度は、栽培方式の見直しなども含めて通年での安定した供給量、雇用の確保を目指しつつ、より収益性の高い作物の研究を継続して行う。</p>
				H29	16		1	
				H30	26		1	
				R1	36		1	
				R2	46		2	
			②農業品販売収入金額	H28	0	円	0	
				H29	10,000,000		0	
				H30	30,000,000		230,241	
				R1	60,000,000		488,268	
				R2	90,000,000		1,070,642	
			③新たな農産物の生産種目数	H28	0	品	0	
				H29	1		3	
H30	2			12				
R1	3			23				
R2	4			34				
2	<p>■ 山村留学・英語教育推進による移住・定住促進事業</p> <p>昭和63年から山村留学制度を開始以降、延べ500人の小中学生を受け入れ、成長過程の中での体験活動や地域の小中学生との交流活動を通じて、思いやり・自主性・協調性・忍耐力等の豊かな心を育てている。また、幼小中高一貫教育によりグローバル化社会に対応する力を身につけるための英語教育を推進している。こうした特色ある環境を更に充実・発展させ、若い世代（親子留学）の移住・定住を進め、地域の人口増加を目指す。</p> <p>※地方創生交付金の利用状況</p> <p>【推進交付金】（H28～H30）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山村留学制度推進協議会活動補助事業 PR活動旅費（関東・関西） PR活動用チラシ印刷費 <p>【拠点整備交付金】（H28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子留学専用住宅の建設 ※資料2 	事業費 1,412,006	①山村留学生・及び保護者等移住・定住定住者数（延べ	H28	100	人	99	<p>令和2年度は下記の事業を行った。</p> <p>（中止）5月山菜採取体験</p> <p>（中止）7月サマーキャンプinうりまく</p> <p>7月然別湖カヌー体験（サマーキャンプ代替）</p> <p>9月ナイトクルーズ・星座観察会</p> <p>9月エア・トリップ体験（サマーキャンプ代替）</p> <p>10月熱気球体験</p> <p>11月搾乳体験</p> <p>2月然別コタンを楽しもう！</p> <p>3月スキー体験学習（小・中）</p> <p>令和3年度についても、コロナ禍により実施できない事業もあるかもしれないが、募集方法や参集方法を工夫したり、また例年実施している3泊4日のキャンプを日帰りの行事に分けたり、会食や密になる場面を避けたりと、できる限り事業を実施していく。</p> <p>また、次年度の募集活動についても、コロナ禍の状況によるが、例年行っている東京や大阪での説明会などの開催は難しいが、オンラインでの方策を模索して実施する。</p>
				H29	105		102	
				H30	110		114	
				R1	115		100	
				R2	120		108	
			②山村留学生人数	H28	15	人	8	
				H29	18		16	
				H30	22		16	
				R1	23		17	
				R2	24		17	
			③実用英語技能検定3級以上合格者率（中学3年生）	H28	51	%	33	
				H29	52		57	
				H30	53		53	
				R1	54		55	
				R2	55		66	
			④親子留学による児童・生徒数	H28	7	%	7	
				H29	8		2	
				H30	10		7	
				R1	11		7	
				R2	12		8	
⑤親子留学生及び保護者等移住・定住者数	H28	14	人	14				
	H29	16		4				
	H30	21		9				
	R1	23		12				
	R2	26		15				

no	事業名	R2事業費等	評価指標及び実績値				事業内容	
		単位：円	指標	年度	指標値	単位		実績値
				H28	46.67	%	46.67	
				H29	50.00		25.00	
			⑥留学生全体に占める親子留学生の割合	H30	52.94		33.33	
				R1	55.56		41.17	
				R2	57.89		47.05	
3	<p>■十勝アウトドアDMO事業 (帯広市、鹿追町連携事業) 十勝アウトドアブランディング事業(地方創生加速化交付金事業) を発展させ、十勝の雄大な自然空間を最大限活用していくため、十勝特有のアウトドアに特化したDMOを確立するとともに、アウトドアによる特別な時間や新しいライフスタイルを提案し、十勝における新たな観光ブランドの創出を目指す。また、アウトドアに精通した人材の育成・確保を行っていく。</p> <p>※地方創生交付金の利用状況 【推進交付金】(H28~R2) ・アウトドアガイド人材育成事業補助事業 アウトドアガイド育成のためのカリキュラムの実施 ※資料なし(令和2年度実績無し)</p>	<p>全体事業費 15,785,000</p> <p>うち 鹿追町分 事業費 0</p> <p>交付金 0</p>	<p>①十勝の観光消費額 (増加額)</p> <p>②十勝のアウトドア観光消費額 (増加額)</p>	<p>H28 4,163,540 H29 1,973,080 H30 1,973,080 R1 1,973,080 R2 1,973,080</p> <p>H28 21,001 H29 21,631 H30 22,280 R1 22,948 R2 23,637</p>		<p>千円</p> <p>千円</p>	<p>13,302,242 9,405,142 3,736,064 -1,428,680 -72,502,456</p> <p>-105,648 186,217 -4,944 33,917 -509,686</p>	<p>本事業は帯広市との連携事業となっており、鹿追町はアウトドアに精通した人材の育成・確保として、然別湖ネイチャーセンターでアウトドアガイド育成のためのカリキュラムの実施・検討を行っている。</p> <p>令和2年度は、4月から北海道を含めて人の移動に制限があり、3月まで道内各地から参加者を募集したが、現地で実施する人材育成プログラムは実施することができなかった。</p> <p>本事業は令和2年度をもって終了。</p>
4	<p>■北海道十勝地域×東京台東・墨田区連携事業 ~大地のタカラ×江戸のチカラ 関係人口創出プロジェクト~ 本事業は、平成26年に東京特別区長会が「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みを開始したことを契機に、平成29年度より十勝地域と台東区・墨田区との連携事業について検討を開始したもので、北海道十勝地域及び東京都台東区・墨田区の「人」や「企業等」が、一過性ではない「深い交流」を持続的に展開する環境を創り出すことにより、両地域の「関係人口」の創出・拡大を目指すもの。</p> <p>※地方創生交付金の利用状況 【推進交付金】(R2~R6) 北海道十勝地域×東京台東・墨田区連携事業</p>	<p>全体事業費 16,850,000</p> <p>うち 鹿追町分 事業費 524,000</p> <p>交付金 262,000</p>	<p>①観光消費額(十勝地域の額、台東区と墨田区の合計額を設定)(増加額)</p> <p>②両地域において企業が連携して開発した健康増進や滞在型のプログラム、商品の件数(増加分)</p> <p>③両地域の連携事業へ参画した個人のうち継続して参画意欲がある人数(増加分)</p> <p>④イベント参加者へのアンケートにより十勝地域と台東区・墨田区の連携が大切とする住民の割合(増加分)</p>	<p>R2 268 R3 143 R4 148 R5 153 R6 160</p> <p>R2 1 R3 1 R4 1 R5 1 R6 1</p> <p>R2 50 R3 50 R4 50 R5 50 R6 50</p> <p>R2 2 R3 2 R4 2 R5 2 R6 1</p>	<p>億円</p> <p>件</p> <p>人</p> <p>%</p>	<p>-1,990</p> <p>0</p> <p>2</p> <p>2</p>	<p>本事業は十勝町村会、台東区、墨田区との連携事業となっており、下記1.2.3.の事業を柱としながら「関係人口」の創出・拡大を目指すものとなっている。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、計画どおり実施できなかった事業もあるものの、以下のとおり事業を実施。</p> <p>【令和2年度実施事業】</p> <p>1. 江戸の伝統を生かした十勝産品による新しい食文化の創出事業 (1)たいとう・すみだ・十勝ウィーク ①2Wayクッキング教室(R3.3.14) ②十勝食材フェア(R3.3.13-21) (2)たいとう・すみだ特産品づくり 十勝地域、台東区、墨田区事業者ヒアリング</p> <p>2. 十勝・東京スポーツ・アウトドア交流拡大事業 (1)台東区・墨田区民ニーズ調査 (2)十勝地域事業者ヒアリング</p> <p>3. 北海道十勝地域と東京たいとう・すみだ戦略的交流事業 (1)交流戦略委員会の設置・開催(計3回) (2)交流戦略策定に向けた調査・検討 (3)情報発信(ホームページ、冊子の作成)</p> <p>令和3年度以降も上記1.2.3.を柱に計画に沿って事業展開をしていく。</p>	

<R2実績> 第2期 総合戦略KPIについて

1年目 2年目 3年目 4年目

戦略 番号	項目	指標	年度	現状値	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度実績	目標年度	目標値	目標に 対する 実績率	総合戦略 該当ページ
----------	----	----	----	-----	--------	--------	--------	--------	------	-----	-------------------	---------------

【基本目標（1）地域における安定した雇用を創出し、これを支える人材を育て活かす】

戦略1	学校教育	鹿追高校での英検2級取得者数	2018 (H30)	5	5				2023 (R5)	10	50%	10
戦略2	農業（経営・基盤整備）	国営・道営農業基盤整備事業の 実施地区数	2018 (H30)	5	5				2023 (R5)	4	125%	12
		多面的機能支払事業実施事業費（千円）	2018 (H30)	101,430	101,369				2023 (R5)	101,000	100%	12
戦略3	農業（安心・安全な農業）	環境保全型農業直接支払交付金 事業取組者数	2018 (H30)	34	22				2023 (R5)	35	63%	14
		加工品開発製造支援件数	2018 (H30)	63	85				2023 (R5)	70	121%	14
		G A P取組者数	2018 (H30)	105	104				2023 (R5)	110	95%	14
戦略4	農業（持続可能な農業）	バイオガスプラントによるバイ オマス資源活用量（t）	2018 (H30)	152,500	161,534				2023 (R5)	181,000	89%	16
		バイオマス事業における雇用数	2018 (H30)	19	23				2023 (R5)	27	85%	16
		水素エネルギーの利活用による 水素製造量（m³）	2018 (H30)	25,208	18,461				2023 (R5)	50,000	37%	16
戦略5	商工業	商工会会員数	2018 (H30)	169	164				2023 (R5)	165	99%	18
		道の駅連携イベント実施数	2018 (H30)	2	0				2023 (R5)	10	0%	18
戦略6	エネルギー	自営線ネットワーク事業にかか わる雇用人数	2018 (H30)	0	1				2023 (R5)	1	100%	20

【基本目標（2）地域への新しいひとの流れをつくる】

戦略7	学校教育	親子留学者数	2018 (H30)	5	8				2023 (R5)	10	80%	22
戦略8	観光	観光客数	2018 (H30)	742,000	598,700				2023 (R5)	872,000	69%	24
戦略9	ジオパーク	とちぎ鹿追ジオパーク ビジターセンター来館者数	2018 (H30)	3,000	1,933				2023 (R5)	3,300	59%	26
		とちぎ鹿追ジオパーク 講座・ツアーなどの受講者数	2018 (H30)	400	210				2023 (R5)	600	35%	26
戦略10	花、公園	花によるまちのきれいさ (%)	2018 (H30)	97	85				2023 (R5)	110	77%	28
		フラワーマスター人数	2018 (H30)	67	60				2023 (R5)	78	77%	28
戦略11	交流	受入れホスト家庭数	2018 (H30)	308	318				2023 (R5)	358	89%	30
		国内姉妹提携都市数	2018 (H30)	0	0				2023 (R5)	1	0%	30
戦略12	行政運営	十勝管内の観光入込み客数 (延べ人数) (万人)	2018 (H30)	1,033	1,026				2023 (R5)	1,046	98%	32
		十勝管内バス乗客数 (万人)	2018 (H30)	459	451				2023 (R5)	464	97%	32

【基本目標（3）若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる】

戦略13	子育て支援	この地域で子育てしたいと思う 保護者の割合	2018 (H30)	97.7	94				2023 (R5)	100	94%	34
		子育て世代包括支援センターを 知っている妊婦の割合	2018 (H30)	0	-				2023 (R5)	50	#VALUE!	34

【基本目標（4）時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する】

戦略14	高齢者福祉	高齢者福祉総合相談者数	2018（H30）	357	196				2023（R5）	400	49%	37
		ボランティア会員数	2018（H30）	160	143				2023（R5）	200	72%	37
戦略15	防災	市街地区行政区の防災訓練（行政区）	2018（H30）	0	0				2023（R5）	10	0%	40
戦略16	情報通信	農村地区の情報通信高度化事業（事業者着前を0・着手（将来目標）を1）	2018（H30）	0	1				2023（R5）	1	100%	42
戦略17	コミュニティ	無作為抽出による会議などへの参加件数	2018（H30）	0	0				2023（R5）	5	0%	44
		ふれあいトークへの参加人数	2018（H30）	0	93				2023（R5）	300	31%	44
		行政区支援事業への参加数（行政区）	2018（H30）	24	8				2023（R5）	35	23%	44
戦略18	財政運営	行財政改革による経常的経費の削減効果（年間）（千円）	2018（H30）	0	0				2023（R5）	100,000	0%	46

令和3年度鹿追町まち・ひと・しごと創生推進会議意見・回答一覧

項目	意見内容	回答
KPIに関連する意見	<p>戦略2：農業（経営基盤整備）</p> <p>多面的機能支払事業等の活用により農地保全・景観維持のみならず営農支援に寄与している事から継続した事業利用を期待したい。</p>	<p>多面的機能支払事業は、2014（平成26）年度に法制化されたことにより恒久的な事業となりました。地域共同で行う多面的機能を支える活動や、地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図るため、今後も継続的に取り組んで参ります。</p>
	<p>戦略4：農業（持続可能な農業）</p> <p>現有2基のバイオガス施設は町内畜産農家の安定経営に有効に機能している。</p> <p>今後は、経営体戸数の減少が続く中でも、町内農業生産額の維持・拡大に向け未整備地区から要望の強い町内3基目となる施設の早期建設を期待したい。</p>	<p>3基目のバイオガス施設に関しましては、2020（令和2）年度にマスタープランの策定を終えたところであります。これにより施設規模や課題などが明らかとなり、特に多額の建設費や液肥の有効活用、発電した電力の系統接続など、既存の施設を建設した時とは状況が異なる部分もあります。</p> <p>今後ひとつひとつの課題を精査し、慎重に検討を重ねる必要があると考えますが、可能な限り要望に応えられるよう進めて参ります。</p>
	<p>戦略4：農業（持続可能な農業）</p> <p>水素エネルギー利活用の今後の展開に期待したい。</p>	<p>水素エネルギーは、脱炭素社会を推進するための柱となるエネルギーとして期待をされており、当町でも水素サプライチェーン実証事業の取り組みに協力をしているところであります。</p> <p>現在バイオガスからの水素製造は順調ですが、水素を利用する機会が少ないのが現状です。今後製造コストと消費のバランス、活用方法等をさらに検討して参ります。</p>
	<p>戦略5：商工業</p> <p>商工会の会員数の表示だけでは商工業をどう活性化させようとしているのか見えてこない。</p>	<p>本戦略については、KPIの効果測定をするための指標を商工会の会員数としております。</p> <p>全国的な人口減少が進行する中で、それに伴う消費活動が減少する事が予想され、本町においてもこれらの影響により商工業が衰退される事が危惧されます。</p> <p>そのため、本指標を設定し、商工会会員数を維持しながら商工会や道の駅など連携し活気ある商工業活動を推進していくものです。</p>
	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により人との交流の在り方が大きく変わってきている。</p> <p>戦略によっては当初設定した目標と大幅な乖離が発生し、取り組みが形骸化してしまう恐れもあるので、戦略や目標の見直しが必要かどうかの確認も必要では。</p>	<p>状況を注視しながら見直しについて検討して参ります。</p>
	<p>各実績を拝見すると、総合戦略1年目としてはかなり高い達成率になっている印象。</p> <p>この実績が人口減少・地方経済縮小の克服・地方が成長する力を取り戻す「地方創生」という本戦略のテーマ実現に向かっているのかを検証する必要があると思われる。</p>	<p>本実績が「地方創生」の実現につながっているかという検証について、本推進会議及び事務局にて適正に行い、次期総合戦略にも生かして参ります。</p>
バイオガスプラント余剰熱を利用したハウス野菜栽培事業	<p>今後の取り組みによって雇用・収益両方の成果に期待が持てる。</p> <p>※高収益作物の選定とノウハウ確立を急いだほうが良い。</p>	<p>高収益作物の選定と栽培ノウハウの確立を急務と考えております。</p> <p>現在出荷量も増えてきており、販売収入の増加に合わせて収穫、出荷作業等での雇用増加も視野に検討を進めて参ります。</p>
	<p>指標値と実績値の乖離がとても大きい、その要因は。</p>	<p>指標値は当初の栽培技術で生産が安定し、施設の拡大や雇用の増加を見込んだものでありましたが、当初の栽培技術での生産が安定しなかった為、現在では新たな栽培方法の確立と栽培作物の選定を行っているところであります。</p> <p>栽培方法の変更に伴い、指標値と実績値が乖離しておりますが、農福連携や地域雇用の創出など、新たな目標を設定し、地域に貢献できる取り組みを検討して参ります。</p>

項目	意見内容	回答
	<p>余熱利用という利点を生かし、積算温度の調節等が可能であることから、キノコ類の通年栽培も検討しては如何。（棚方式瓶栽培等）</p> <p>雇用の創出や農地に余裕のない町内の状態において余剰熱を利用したハウス栽培は新規就農の有効な手段だと思う。</p> <p>経営の成り立つ品種の選定や栽培技術の研究を期待したい。</p>	<p>キノコ栽培については、昨年もご意見を頂いてから調査検討を続けており、夏場の高温時での栽培技術や施設の改修工事などの課題はありますが、キノコは生産量、卸価格ともに安定している傾向にあり、需要も高いことから今後も継続して可能性の調査を参りたいと考えます。</p> <p>新規就農者にとってハウス栽培は魅力的なものと思われ、町としても新規就農者が増えるきっかけになれば大きなメリットと考えます。</p> <p>現状では余剰熱を用いたハウスでは熱量に限りがあること、また遠方までは熱の供給ができないため熱源近くにハウスが必要なことなどの課題がありますが、作物の選定や栽培ノウハウ確立とあわせて検討して参りたいと考えます。</p>
山村留学・英語教育推進による移住・定住促進事業	山村留学生が成人したときに鹿追で活躍してくれる意識づけと町内の受け入れ態勢の整備が必要。	本町の留学制度は、1988（昭和63）年度からスタートし、現在もなお継続して実施され、多くの子どもたちが本町で貴重な体験を糧に全国各地で活躍されています。今後も引き続き受け入れ体制や住環境の整備に努めて参ります。
北海道十勝地域×東京台東・墨田区連携事業	<p>東京都台東区や墨田区は浅草やスカイツリーがあり、東京でも屈指の観光エリアで、十勝の魅力を発信する対象としてはとても良いパートナーである。</p> <p>案内のあった資料だけではどのような事業なのか、どのような未来を期待できるのかわかりづらいので、HP等で取り組みを紹介いただけるとありがたい。</p>	本事業は東京23区と全国の各地域が連携・交流事業を行うものですが、ご意見を頂いたとおり本町が特定分野（産業・環境）で連携協定を結んでいる台東区との交流内容も含めて、北海道十勝地域×東京台東・墨田区連携事業についても町民の方に認識を深めていただけるよう、HP等で紹介したいと思えます。
地方創生推進交付金活用事業全般	<p>①～④の事業だけでなく、官が指導するのではなく、民間に任せるものは民間に任せたいと思う。</p> <p>それが起業の促進、役場職員の削減につながると思う。</p> <p>費用対効果として厳しい事業が多い印象。</p>	<p>地方創生の観点からも「民間活用を図っていく」という視点は必要なことと考えており、現在、行財政改革の取組みにおいても実現可能性について模索をしているところです。引き続きどうぞよろしくお願い致します。</p> <p>費用対効果を発揮できるよう適正に事業運営を行って参りたいと考えております。</p>
その他	<p>鹿追町はゼロカーボンシティやバイオガスプラント等SDGsへの取り組みを積極的に行っている町であり、町民の皆様も少なからず関心を持っていると思われる。</p> <p>KPIとは直接関係ないかもしれないが、総合戦略を周知することは鹿追町の魅力を再確認するきっかけとなり、人口減少・地域経済縮小に歯止めをかける一つの力にもなると思うので、例えば各戦略がSDGsのどの目標に通ずるものなのかを明示する等いろいろな視点で町民の皆様に興味を持ってもらえるよう発信してみても如何。</p>	<p>本戦略の周知、そしてSDGsの関連について大変貴重なご提案を頂きましてありがとうございます。</p> <p>本戦略は2020（R1）年度に、本推進会議（21名）を最上位会議体として、同町民会議（30名）やまちづくりワークショップ（延べ220名）など多くの町民の皆さまと対話をしながら策定をし、策定後は広報しかおいで周知しました。また、本戦略及び本町の最上位計画である第7期鹿追町総合計画においても「SDGs」を推進していくこととしており、委員ご提案のとおり本戦略におけるSDGsとの関連を示すことは今後必要なことと考えております。</p> <p>本戦略の期間は2023（令和5）年度となっておりますので、「第3期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、改めて町民の皆様へ、広くわかりやすく周知するとともに、ご提案を頂いたSDGsとの関連明示について実践して参りたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。</p>

項目	意見内容	回答
	<p>基本的な部分である出生数は増えているのか？若年層の就労は増えているのか？など具体的な数値がないため、効果について判断できない。しごと→ひと→まちのしごとが弱い印象。</p>	<p>人口等の情報について次のとおり回答させていただきます。</p> <p>【総人口（住基人口ベース）】 2019（R1）：5,331人 2020（R2）：5,247人（前年比-84人）</p> <p>【出生数（住基人口ベース）】 2019（R1）：37人 2020（R2）：25人（前年比-12人）</p> <p>また、本戦略は「鹿追町人口ビジョン2015（以下、人口ビジョン）」の鹿追町独自推計値を目標値としており、現在人口ビジョンと実際の差は次のとおりです。</p> <p>【2020（R2）年比較】 人口ビジョン：5,421人 鹿追町総人口：5,247人（差：-174人・-3.3%）</p> <p>※若年層の就労数増減については、国勢調査を参考に分析しており、まだ2020(R2) 国勢調査の結果が公表されておりませんので、参考にこれまでの実績について以下のとおり共有させていただきます。</p> <p>【若年層の就労数（20歳～29歳男女）推計】 2010（H22）：425人 2015（H27）：407人（前回は-18人・-4.3% ※北海道全体では、-14%）</p> <p>本戦略を推進することでの人口への影響を把握することは重要なことと思いますので、引き続きKPIと合わせてしっかりと検証して参ります。</p>